

献呈の辞

平野篤司先生は、平成 27 年 3 月末にご定年により本学を退職されました。

先生は、昭和 48 年 3 月東京外国語大学外国語学部ドイツ語学科をご卒業後、東京大学大学院人文科学研究科に進まれ、昭和 51 年 4 月東京外国語大学外国語学部助手に採用。その後、平成 12 年 3 月まで同大学外国語学部教授を務められてから、同年 4 月に本学部に赴任されました。以来、15 年間にわたり、本学の教育と研究にご尽力されたほか、長期にわたり法学部基礎教育主任として、学内行政にも多大な貢献をされました。

先生の研究分野は、近現代のドイツ文学。一昨年の 3 月と 4 月にご出版された『ゲートからツェラーンへ — ドイツ文学における詩と批評』と『ゲートからベンヤミンへ — ドイツ文学における主題と変奏』の著書は、ドイツ文学における批評あるいは哲学と文学との連関を解明しようとする先生の並々ならぬ意欲が現われ、日頃の温厚で清々しい印象とは異なる面を感じさせる力作であります。

今後の益々のご研究のご発展を祈念申し上げますとともに、これまで先生から受けた学恩に対するささやかな感謝の証として、本教養論集を『平野篤司教授退任記念論文集』とさせて戴きたく存じます。

平成 28 年 3 月

成城大学法学部長

鋤 本 豊 博

